

非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究

～日本型教育先進地エジプトにおける Tokkatsu の効果検証～

2024 年度中間報告書

令和 6 年 11 月 1 日

4 つの調査研究チームごとに、昨年 12 月の現地調査で取得したデータの分析を行い、日本比較教育学会、日本特別活動学会、世界授業研究学会（WALS）などで研究発表・課題研究報告を行い、研究成果を国内外に向けて幅広く発信した。これらの発表等の参加者数は、計 488 名にのぼる。

エジプトにおける学級会の参与観察およびインタビューから得られた知見を活かした、日・エ融合型学級会について 3 回のミーティングを行い、11 月 1 日に埼玉県深谷市立藤沢小学校で研究授業・検討会および児童への質問紙調査を実施予定である。

12 月 21 日～12 月 27 日のエジプト滞在期間中に、追加の現地調査（参与観察、インタビュー）や国際シンポジウムを実施する予定である。また、主に国内向けの成果報告会を 2 月 1 日に開催予定であり、準備を進めている。

活動①	<p>2024 年 9 月 12 日にトッカツ・オフィサー認証制度（TTCS）の関係者会議をエジプト日本科学技術大学（E-JUST）スマートビレッジキャンパスに開催し、エジプト国内大学教育学部関係者 19 名、エジプト教育技術教育省関係者 11 名、JICA 関係者 3 名が参加して開催した。昨年度までの同認証制度の成果をエジプト国内大学の教育学部関係者に伝える初の機会となった。さらに、その成果も含むエジプトにおける特別活動の導入について、以下の通り、世界授業研究学会で発表した。</p> <p>—Nobuhiro Setoguchi. Igniting collaborative spirit among students and teachers through Tokkatsu and Lesson Study (A case of Egypt), World Association of Lesson Study International Conference 2024. 【参加者 96 名】</p> <p>また、令和 5 年度に実施した Tokkatsu Officer（TO）のインタビューのデータを分析し、その成果を以下の通り発表した。</p> <p>—Tetsuo Kyomen. The Relationship between Social-Emotional Learning and Lesson Study from the Teacher's Perspective: Tokkatsu in Egypt and Japan, World Association of Lesson Study International Conference 2024. 【参加者 35 名】</p>
活動②	<p>令和 5 年度に EJS2 校で参与観察した学級会の逐語記録、および参加型評価（MSC）の結果について分析を行い、その成果を以下の通り発表した。</p> <p>—平田幸男「エジプトにおける Tokkatsu 導入の MSC 評価～エジプト特活教育における MSC 評価事例～」一般社団法人参加型評価センター主催「気付きと対話による MSC</p>

	<p>評価フォーラム】【参加者 25 名】</p> <p>—平田幸男・山田真紀・添田晴雄・天野幸輔・京免徹雄「エジプトにおける Tokkatsu の導入がもたらした子ども・教師・学校の変化—教師・Tokkatsu Officer・保護者の参加による MSC 研修での調査から—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 15 名】</p> <p>—小泉琢磨・山田真紀・土屋愛・京免徹雄「エジプト日本学校（EJS）における学級会の特徴（1）—児童・教師の発言から見る変化—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 32 名】</p> <p>—山田真紀・小泉琢磨・土屋愛・京免徹雄「エジプト日本学校（EJS）における学級会の特徴（2）—シーケンス分析に基づく経年変化—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 30 名】</p> <p>—石井雄大・山田真紀・清水克博・林尚示・安部恭子「エジプト日本学校（EJS）における学級会の特徴（3）—事後インタビューからみる教師と児童の認識の違い—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 10 名】</p> <p>公立学校（パイオニア校）1 校、公立学校（一般校）での学級会の参与観察は、12 月末に実施予定。</p>
活動③	<p>令和 5 年度に実施したインタビューのデータを分析し、特別活動の内容と機能のうち、何が受け入れられており何が受け入れられていないか、受容の際にどのようなカスタマイズがなされているか明らかにした。また、その成果を以下の通り発表した。</p> <p>—京免徹雄・田中光晴・添田晴雄「エジプトにおける日本型教育モデル Tokkatsu 受容の構造的要因—現地主義アプローチに基づく内因・外因の分析—」日本比較教育学会第 60 回大会【参加者 39 名】</p> <p>—添田晴雄・相庭貴行・土屋愛・安部恭子・秋山麗子「エジプト日本学校(EJS)における Tokkatsu の受容とその影響—EJS 教員対象インタビューの分析から—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 30 名】</p> <p>—平野修・土屋愛・日野陽平・小泉琢磨・山田真紀「エジプトの TOKKATSU は子どもの成長をどう変えたのか～児童インタビューから～」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 20 名】</p> <p>—田中光晴・京免徹雄・樋口耕平・橋谷由紀「エジプトにおける Tokkatsu の普及に果たす Tokkatsu Officer の役割」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 15 名】</p> <p>エジプトにおける学級会の参与観察およびインタビューから得られた知見を活かした、日・エ融合型学級会を 11 月 1 日に実施予定。公立学校（パイオニア校）1 校、公立学校（一般校）1 校におけるインタビュー調査は、12 月末に実施予定。</p>
活動④	<p>令和 5 年度に実施した合同模擬学級会の事後グループインタビューの結果を分析し、その成果を以下の通り発表した。</p> <p>—天野幸輔・鈴木純一郎「日本型教育の発展に向けた日本人学校と現地校との協力体制のモデル化に向けて—エジプトにおける特別活動（Tokkatsu）の展開を手掛かりに—」全</p>

	<p>国海外子女教育国際理解教育研究協議会第 51 回鳥取大会【参加者 37 名】</p> <p>—天野幸輔・鈴木純一郎・山田真紀・平田幸男「Tokkatsu の共同授業研究による日本人学校と現地校の協力体制の構築の試みと検討—カイロ日本人学校とエジプト日本型学校における学級活動(1)および(2)の実践的研究からの報告—」日本特別活動学会第 33 回つくば大会【参加者 19 名】</p> <p>カイロ日本人学校と（CJS）とエジプト日本学校（EJS）との合同事業については、12 月末に実施予定。</p>
活動⑤	<p>上記の通り、日本比較教育学会で 1 件、日本特別活動学会において 8 件、世界授業研究学会（WALS）で 2 件、その他で 2 件の研究発表を行った。</p> <p>日本特別活動学会第 33 回つくば大会において、課題研究 4「エジプトの子どもからみた日本型教育と Tokkatsu」を開催した【参加者 54 名】。3 つの報告のタイトルと報告者は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> —杉田洋「エジプトに導入された日本型教育と Tokkatsu」 —平野修・小泉琢磨・土屋愛「エジプトの子どもからみた Tokkatsu – 日本での実践と比較しながら—」 —相庭貴行・添田晴雄・林尚示・山田真紀「エジプトの Tokkatsu 実践からみえた日本の特別活動への示唆」 <p>また、世界授業研究学会の国際会議で以下のワークショップを開催し、各国から 35 名の教員・研究者が参加した。ワークショップでは、学級のアセスメント（学級力）に基づく子ども主体の活動について議論し、アイデアを共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> —Kanao Kusanagi and Tetsuo Kyomen. Realizing holistic education through lesson study and Tokkatsu, World Association of Lesson Study International Conference 2024. <p>エジプトでの国際シンポジウムは、12 月末に実施予定。</p>
その他	<p>世界授業研究学会の国際会議（カザフスタン）の期間中、Tokkatsu を海外に向けて発信するブースを設置した【訪問者 70 名】。</p> <p>カザフスタンの国立教育政策研究所（National Academy of Education, named after Y. Altynsarin）を表敬訪問し、Tokkatsu および Lesson study について、所長および 5 名の研究員と情報交換した。</p> <p>カザフスタンのアスタナにある小・中・高の併設校（国際バカロレアコースを開設）を訪問し、教科外活動や授業研究の取組を参観した。また、「Tokkatsu : Japanese-style Holistic Education」という題目で教職員を対象にミニ講演を行い【参加者 32 名】、日本型教育について発信して意見交換した。</p> <p>後日、世界授業研究学会を主催した、カザフスタンのナザルバエフ知的学校（Nazarbayev Intellectual Schools: NIS）関係者 3 名が、学会参加のための訪日の中で日本の小学校訪問と特別活動の見学を希望してきており、対応を検討している。</p>